

事業報告書(例) ※令和 8 年 2 月 8 日(日)締切

事業名	「とびだせ！みんなで大冒険！」	
担当者氏名	〇〇市生涯学習課（担当 ～ ） 〇〇〇隊 実行委員メンバー 担当	
実施期日	令和 7 年 1 2 月 8 日（日）	
対象者	〇〇市内の小学校 1， 2， 3 年生	
募集人員	50 人程度	
募集方法	「広報〇〇」での掲示、チラシ配布（公共施設での設置、対象地域の小学校へ配布）、各社新聞での掲示募集	
予算（参加費）	事業予算：¥70,000 参加費：¥1,000（×50 人） 合計¥120,000	
事業のねらい		指導体制
目的地や活動内容等を告知しないで参加してもらう体験活動を通して、集団行動で規律を守る大切さや、友達作りの楽しさを味わわせる。 室内遊びが多い子どもに屋外での遊びの機会を提供することで、自然と触れ合うよさや体を動かす楽しさを味わわせる。		子どもを数班に分け、スタッフがリーダーとして、各班に数名入り、指導または監督責任を行う。また、全体のまとめ役として、実行委員が取りまとめを行う。
参加者の健康・安全対策		
健康については、事前の承諾書送付の際に、同梱するアレルギーアンケートへ記載してもらい、食品アレルギーや持病等の確認を行う。また、本番当日は、受付時に、親御さんにお聞きする。また、本人にも、問診表で各班のリーダーが子ども達に、問診する。 安全対策については、スタッフの事前下見、リハーサルで、危険場所、注意点を確認し、定例会等で各スタッフとの情報共有を行う。		
その他		
新規スタッフの確保については、企画の 2 ヶ月前までに事業の説明会を行い、子どもと同じ募集方法を行う。その後、随時、応募があれば、リハーサル日まで受付可能とする。		

主な活動プログラムの実際		
活動の展開（子どもの様子）	指導者のかかわり（留意点）	活動場所
8：30 スタッフ集合・全体ミーティング	事前打合せ（最終確認）	〇〇市施設
9：00 施設開館・子ども達受付開始	受付・子ども達の案内・体調確認	〇〇市施設
9：15 開会式・アイスブレイキング	開会式進行・子ども達へのアイスブレイキング	〇〇市施設
9：50 出発準備（トイレ等）	トイレ促し・体調確認	〇〇市施設
10：00 出発	点呼	
～	道路補助・注意喚起	
10：37 駅出発（電車乗車）	乗車での補助、注意・トイレ促し・点呼	△△駅
～	電車内での注意喚起	
11：44 駅到着（電車降車）	降車での補助、注意、トイレ促し・点呼	□□駅
～	道路補助・注意喚起	
12：30 目的地到着（公園）	点呼・公園内での注意喚起	公園
12：35 昼食（班毎）	子ども達との昼食	公園
12：55 レクレーション	レクの進行・注意喚起	公園
（全体・班毎）		
～		
14：45 目的地出発（公園）	清掃・点呼・トイレ促し	公園
～	道路補助・注意喚起	
15：28 駅出発（電車乗車）	乗車での補助、注意・トイレ促し・点呼	□□駅
～	電車内での注意喚起	
16：08 駅到着（電車降車）	降車での補助、注意、トイレ促し・点呼	〇〇駅
～	道路補助・注意喚起	
16：30 施設到着（トイレ・アンケート記入）	点呼・アンケート記入	〇〇市施設
16：35 閉会式	閉会式進行	〇〇市施設
16：50 子ども達見送り	忘れ物確認・親御さんへの申し送り	〇〇市施設
17：00 スタッフ解散	後片付け・反省	〇〇市施設
成 果		
企画を通じ、子ども達が校区内外での交流を深める事に成功。また、普段、内気な子ども、グループの中で活発に活動することができ、当初の目的でもあった、自然との触れ合いにも成功。子ども達自ら、レクのルールを変更し、遊びの中で、新しいことへのチャレンジの精神を養えた。親元を離れ、一人での企画の参加で、自ら考え、行動したことにより、自立の精神が養え、社会のルールを学び、集団行動することの難しさを肌で感じた。なにより、参加した子ども全員が「また、参加したい」と答えてくれた。		
課 題		
移動時間が長すぎて、公園での活動時間が短すぎた。また、それに付随し、体力的がもたない子どもも出てきてしまった。電車を使うという目的なら場所を歩く時間を短縮できる方法を考えなければならない。全体を通し、準備期間が短すぎたため、資料作成等も、偏った人が全て作成することになってしまったので、役割配分についての見直しが必要となった。班活では、連帯感を上げるようなレク、または活動を考案していかなければならないことがわかった。		

